

MASAMURA KIMHIRO

正村公宏のこれらの作品群は、人物や花や風景といった対象そのものを再現するのではなく「像が成立し、そして崩れていく過程」そのものを主題としているように見える。画面は写真のような具体性を持ちながら、輪郭は曖昧で、粒子状に分解され、ところどころ消失している。そこにあるのは現在の現実というより、思い出そうとしたときに立ち上がる不完全なイメージすなわち記憶の残像に近い。人物は個人としての特徴を失い、顔は崩れ、背景に溶け込み、誰か特定の存在というより「人という現象」へと還元されている。花もまた生命の象徴としてではなく、すでに衰退の時間に入った存在として描かれ、生と死のあいだにある静かな移行の相を示している。さらに、紙のしわや薬品のムラ、分割の痕跡などが意図的に残されていることから、像は透明な窓ではなく物質としての表面を持つものとして提示されるのかもしれない。私たちは対象を見るのではなく「像がそこに残っている」という事実そのものを見ることになる。

全体を覆う青は、夜や深層、距離、過去といった時間的な感覚を喚起し、現前する世界というより、すでに遠ざかった世界の気配を漂わせる。これらを総合するとこの作品群が示しているのは、存在が確かな形を持つ瞬間ではなく、時間の中で痕跡へと変わっていく過程、言い換えれば「見たもの」ではなく「見終わったあとに残るもの」のようだ。そこには全ての存在がやがて消え去るという不可避性と、それでもなお何かが残る続けるという静かな持続が、同時に可視化されているのかもしれない。



「開花/72h」 P6 Cyanotype、八女紙、銀箔 2025

画廊主・梅津宏規

2026年画廊企画PART 3

正村公宏 展 RAWXRAW

2026年3月7日[土] - 15日[日]

10:30-19:00(10日火曜休廊/最終日17:00まで)

展示動画及び作品のネット購入は会期初日から <https://ameblo.jp/suirancom/>で

MASAMURA Kimihiro Profil

1995 千葉県に生まれる/18 飛騨高山 臥龍桜日本画大賞展入選/19 「最上川〜ここから始まる山形〜」(山形美術館・山形)/「棚倉アートフェスティバル」(福島県棚倉町)/「BANKA 展」(ギャラリー専・仙台)/「みちのく現場考展」(小津和紙ギャラリー・日本橋)/「朝の白灯り展/二人展」(ギャラリー 兎庵・銀座)/「KOWAIL 展」(新井画廊・銀座)/20 「簡単なライフワーク」(ギャラリー・カフェ&バーULTRA・広島)/「オルタナティブスペース heso プレオープン展」(オルタナティブスペース[heso]山形)/21 東北芸術工科大学美術科日本画学部卒業/「山月の會-春耀花影- 東北芸術工科大学日本画金子研究室展」九段 耀画廊・東京/「BEAM 展」丸善丸の内本店4階ギャラリー・東京/22 「Hello2022 新人歓迎展」(SUNABA ギャラリー・大阪)/「Emerging Painter's Show- Summer 22 -」(アーツ千代田 3331myheirloom・東京)/23 東北芸術工科大学大学院絵画領域日本画修了/東北芸術工科大学大学院修了制作展/アマダレ 2023-土田 翔・正村公宏・松尾昌樹 画廊翠巒・群馬/24 「未視感 -Jamais vu-」(YYARTS・銀座)/「青と緑は水切りを 正村公宏・松尾昌樹」(UNPEL GALLERY・日本橋)/正村公宏展「刻の Montage」(画廊翠巒・群馬)/「BLUE SCREEN -不在の存在-」myheirloom・日本橋/25 Re: もう一つの前橋の美術 2025(画廊翠巒・群馬)/花の写真(K-ARTGALLERY・原宿)/たいせつなもの展 -ベチカ-(靖山画廊・銀座)/2026 「Re:もう一つの前橋の美術 2026」画廊翠巒・群馬[主な受賞]19 東北芸術工科大学進級制作展優秀賞/21 東北芸術工科大学卒業制作展優秀賞

画廊翠巒
GALERIE SUIRAN

371-0801 群馬県前橋市文京町 1-47-1
TEL 027(223)6312(代) FAX 027(221)5909
E-mail suiran@suiran.com URL <http://suiran.com/>



MASAMURA Kimihiro



「RAW」 430×310mm cyanotype、八女紙、ジェルメディウム他 2026

GALERIE SUIRAN